

USD / JPY 米ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年7月の相場展望

発行日

July 1, 2026

対象期間

6月実績 / 7月展望

通貨ペア

USD / JPY

発行頻度

Monthly

6月末レート（終値）

162.588

▲ +2.04%（6月月間騰落）

6月高値

162.665

6月安値

159.291

FED金利

3.50-3.75%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

6月は**159.34円からスタートし162.59円まで上昇**、月間+2.04%の円安・ドル高。米CPIの高止まり（5月分前年比4.2%）とFedのタカ派姿勢が継続し、ドル需要が優勢となった

日銀が6月15～16日会合で0.25%利上げを決定（0.75%→1.00%）。1995年以来の高水準。7対1での決定（報道によれば、植田総裁欠席のもとで会合が行われた）。一方で利上げ後も円安基調は根強く継続

6月17日のFOMCでは**12対0で3.50～3.75%を据え置き**。ドットプロットで2026年末中央値が3.8%に上昇し、年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えた。FOMC後のコミュニケーションでは、インフレ抑制を優先する姿勢が示された

中東情勢を巡る地政学リスク後退が意識され、一時的に円買い・ドル売りが入る場面もあったが、Fedのタカ派姿勢が円安圧力を上回り月末に向けて162円台を回復

7月 基本シナリオ レンジ

158 - 164円

FOMC（7/29）と日銀（7/31）の政策姿勢が焦点（確率50%）

日米政策金利差

最大2.75pp

日銀利上げにより前月比縮小。依然ドル優位が継続

始値

159.335

6月1日

高値

162.665

月中最高値

安値

159.291

月中最安値

月間騰落

+2.04%

+3.253円

6月の相場動向

6月のドル円は**159.34円でスタートし162.59円まで上昇**、月間+2.04%と当社定点観測対象の主要5通貨ペア中で最大の上昇幅。6月10日に発表された米5月CPI（前年比+4.2%）が高止まりし、Fedの利下げ観測が後退。6月17日のFOMCでは**12対0で3.50～3.75%の据え置き**を決定し、ドットプロットで年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えたことがドル高を主導した。

一方、日銀は6月15～16日の会合で**0.25%利上げを実施（0.75%→1.00%）**。7対1の賛成多数での決定だったが、利上げ後も日米金利差（最大2.75pp）の大きさから円安圧力は払拭されず。中東情勢の落ち着きが円高を促す場面もあったが効果は限定的にとどまり、月末に向けて162円台まで回復した。

主要イベントの影響

us FOMC 6月17日（日本時間6/18早朝3時）**12対0で3.50～3.75%を据え置き（4会合連続）**

ドットプロット中央値を3.8%に引き上げ。年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えた

FOMC後のコミュニケーションでは、インフレ抑制を優先する姿勢が示された

JP 日銀 6月15～16日 利上げ**0.25%利上げ（0.75%→1.00%）、7対1で決定**

1995年以来の高水準。報道によれば、植田総裁欠席のもとで会合が行われた（氷見野副総裁が議長代行）

中東情勢の落ち着きと重なり円高を促す場面もあったが効果は限定的

6月の総括

6月は「**日銀利上げ vs Fedのタカ派継続**」の構図の中、Fedタカ派姿勢が勝り月間+2.04%のドル高・円安となった。日銀の利上げによって日米金利差は0.25pp縮小したものの、依然として最大2.75ppとドル優位の構造が継続。**中東情勢を巡る地政学リスクの後退**もあり、7月は新たな相場局面へ移行する可能性がある。

7月の注目ポイント

7月の最大の焦点は①**7月14日発表の米6月CPI**（前年同月比の伸び率が5月の+4.2%からどう変化するか）、②**7月29日FOMC会合（日本時間7/30早朝3時発表）**（FRBの追加引き締め判断）、③**7月31日 日銀会合**（追加利上げの有無）の3点。日銀は今回の利上げ後の経済・市場への影響を見極める局面にあるとみられ、7月の追加利上げ確率は低いと考えられるが、Fedがタカ派を維持する中でもドル円の方向性を決定する重要局面となる。

シナリオ別レンジ予測

 強気	25%	米CPI高止まり・Fed利上げ示唆で一段のドル高	163 – 167円
 基本	50%	Fed・日銀ともに現状維持。高値圏でのレンジ推移	158 – 164円
 弱気	25%	日銀の追加利上げ示唆・米CPI鈍化でドル急落	152 – 159円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
Fedが7月29日に利上げ実施または強いタカ派発言	中	円安	ドットプロットでは年内の追加引き締めを示唆する見通しが増えている。実施なら3.75～4.00%へ、ドル高加速で165円方向
米6月CPI（7/14発表）の鈍化	中	円高	地政学リスク後退に伴う原油価格の落ち着きがエネルギー価格を押下げれば、Fed利上げ観測が後退しドル売りが加速
日銀が7月31日に追加利上げを示唆	低	円高	市場では追加利上げは当面見送られ、次回は年後半との見方が多い。7月示唆は低確率だが実現すれば円ショート大規模解消で155円方向
中東情勢の再緊迫化	中	円安	地政学リスクが再び高まり原油が再上昇すれば、米インフレ懸念の再燃を通じてFedのタカ派姿勢が意識され、ドル高圧力が強まる可能性がある

7月の見通し

基本シナリオは**158～164円のレンジ**（確率50%）。日銀の利上げにより日米金利差は0.25pp縮小したが、Fedのタカ派維持と年内追加利上げ観測がドルの下値を支える。**7/14米CPI→7/29 FOMC→7/31 日銀**と3週間で重要イベントが集中。米CPIの鈍化が確認されかがドル円の方向性を左右する最大の分岐点となる。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。年8回の会合で政策金利を決定。足元ではインフレ抑制を重視する姿勢が続いている。次回は7/28-29。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月会合で0.25%利上げし現在1.00%（1995年以来の高水準）。次回は7/31。市場では次回利上げ時期を年後半とみる向きが多い。

政策金利 / 金利差

中央銀行が景気・物価調整のために設定する**基準金利**。日銀の利上げで、政策金利上限ベースの日米金利差はFed上限3.75% - BOJ1.00% = 最大2.75ppへ縮小した。

ドットプロット

FOMCメンバーが将来の**政策金利の予測**を「点（ドット）」で示したグラフ。6月版では2026年末中央値が3.8%に上昇し、追加引き締めの可能性を意識させる内容となった。

CPI（消費者物価指数）

家計が購入する商品・サービスの**価格変動を測定する指標**。米5月CPI前年比4.2%（6/10発表）。次回は米6月分が7/14発表予定。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）を借りて高金利通貨で運用し**金利差から利益を得る取引**。日銀の利上げ継続観測はキャリ－解消・円高のリスク要因となる。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。